

## リーディングDXスクール事業【GIGA×指導の工夫・改善】

札幌市立中央中学校（北海道）【指定校】

## 【GIGA×指導の工夫・改善】 生成AIと一緒に評価をしてみた

## 実際

## 授業者（教師）

①題材計画・評価規準等の準備

③授業

④授業の最後に生徒へ発問（振り返り）

⑤生徒がGoogleformsへ入力

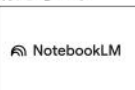
⑥スプレッドシートに変換し、教師による評価  
【評価・理由】※個人情報に要注意！⑨次時  
授業改善へ向けた  
授業構成の見直し  
全体への発問や声掛けの工夫  
対象生徒への発問や声掛けの工夫

安藤教授

②NotebookLMに情報を与える

⑦NotebookLMにてAIによる評価  
【評価・理由・アドバイス】

⑧結果を考察



## 【実践について】

コーディネーターである広島工業大学安藤明伸教授に御協力と御享受を仰ぎ、生成AIと教師が共に生徒の「振り返り」の記述文を評価し、その結果を考察することで授業改善につなげることを目的とした実践研究を行った。（左図：研究概要）

詳しくは、資料（二次元コード）を参考としていただきたいが、指導の工夫・改善として、生成AIの生徒へのコメントは教師が活用できること、妥当性のある評価とするためにも授業内での発問や求める資質・能力をさらに明確にする必要性などが実践を通して見えてきた。

※詳しい資料は右の二次元コードからダウンロードしてください。



## 成果と課題【生徒編】

## 【成果】

- 教師の授業内容や発問内容が改善されたことで、振り返りの記述内容が明確になり、授業を通して「何を学んだのか」「何ができるようになったのか」を意識できるようになった。
- 教師からのスピーディで詳細なフィードバック（アドバイス等を含む）が可能になり、より深い授業理解につながり、振り返ることの意味づけが生徒の中に実感となって浸透している。
- 教師（やや主観も入る…）と生成AIの評価（客観）をもって生徒を評価することで、より正確で公平な評価を受けることができる。

## 【課題】

- ▲教師が毎時間の振り返りに意味づけをしながら生徒に伝えなければ、振り返りの行為そのものが形骸化され、教育的効果が無いものになってしまう。
- ▲教育データ使用上の管理やリテラシーを徹底しなければプライバシーが侵害される危険性がある。
- ▲教師が生成AIの評価に頼りすぎると、生徒の独自の発想や表現が軽視され、個性や人間性が抑制される可能性がある。

## 成果と課題【教師編】

## 【成果】

- 中学校技術・家庭科の教科性もあるが、一緒に評価ができて楽しかった。
- 発問や「評価規準の「曖昧さ（甘え）」を実感し、改善することができた。
- 授業内容や評価について勉強することができた。（指導と評価の一体化の重要性を実感）
- 教師（人間）とAIの評価の相互補完ができ、評価の精度（妥当性）が向上した。
- 評価の客観性と公平性が向上した。
- 今後生成AIによる評価の精度と信頼度が上がれば、生徒へのフィードバックが的確かつスピーディに行える。

## 【課題】

- ▲評価を生成AIに頼ることで、教師の専門性の低下が懸念される。
- ▲教師には、生成AIの評価を客観的にチェックできる知識が必要になる。
- ▲これまで以上に教育データ活用時におけるリテラシーを意識する必要がある。
- ▲教師が生成AIに依存しすぎると生徒の個性や特性をいかす（伸ばす）教科指導が薄れる可能性がある。